

秘 跡

「御父の右に座し」、教会であるご自分のからだに聖霊を注がれた今、キリストは恵みを分かち与えるために制定された諸秘跡を通して行動されます。秘跡とは、人間であるわたしたちの力でもとらえられる感覚的なしるし(ことばと行い)であり、キリストの働きと聖霊の力によって、しるしが表す恵みを効果的に与えるものです。
(カトリック教会のカテキズム 1084)

- ◆ キリスト自身は、目に見えない神の目に見えるしるしです。
📖 「御子は、見えない神の姿であり、すべてのものが造られる前に生まれた方です。」 コロ 1.15
- キリストのからだである教会は救いの秘跡です。(キリストの救いのわざと復活したキリストの現存の目に見えるしるしになることは、教会の使命、存在の意義)
- 秘跡は、キリストによって定められた行為で、聖霊の力によるキリストご自身の行動ですので、キリストを代理する司祭の心の状態を問わずに、必ず完全な行為ですが、その実り(効果)は、この秘跡を受ける人の心の状態(信仰)にかかっています。
- 秘跡は、信仰を前提とするだけでなく、ことばともの(しるし、象徴、行い)とによってこれを養い、強め、現わすものであります。
- 秘跡の目的(典礼憲章 59)
 1. 人々の聖化(キリストとの愛の交わりを深め、完全な一致へと導くこと)
 2. キリストの体の建設
 3. 神に礼拝をささげること
 4. しるしであることによって、教育のためにも寄与する
- 教会の諸秘跡(教会のための秘跡、教会によって行われる秘跡)

キリストによって制定された新約の秘跡は、洗礼、堅信、聖体(エウカリスチア)、ゆるし、病者の塗油、叙階、結婚の七つです。七つの秘跡は、キリスト者の一生のあらゆる段階と重要な時にかかわり、キリスト者の信仰のいのちを生み、成長させ、いやし、そのいのちに使命を与えます。この点で、自然のいのちの諸段階と霊的いのちのそれとの間にはある種の類似が見られます。(カトリック教会のカテキズム 1210)

		秘跡	目に見えない恵み	目に見えるしるしと象徴
キリスト教入信	1	洗礼	原罪から解放、新しい命、神の子、キリストの体	水、言葉
	2	堅信	聖霊の賜物	聖香油、按手、司教の祈り
	3	聖体	キリストの体と血	パンとぶどう酒、聖変化の言葉
いやし	4	ゆるし、和解	罪の赦し(神と教会との和解)	悔い改め、罪の告白、償いと赦免
	5	病者の塗油	苦しみに耐える力と罪のゆるし	油、司祭の祈り
信者の交わりと使命を支える	6	婚姻	教会へのキリストの愛	誓約の言葉、男女の体(夫婦の交わり)
	7	(司祭)叙階	キリストの代理者になること	司教の按手と祈り、聖香由

- 秘跡は、過去のこと(キリストの救いのわざ)を思い起こし、
現在のキリストの働きを表わし、
未来に完全に実現される約束(預言的な行為)であります。